

提 言 公有資産マネジメントの導入

1 現 状 等

(1) 公有資産マネジメント

今後の釧路市における「都市経営戦略」として、釧路市の資産をトータルに管理し、活用していく「公有資産マネジメント」の取り組みが大切です。

公有資産マネジメントとは、公有資産の「情報の共有化、対応の一元化を図りながら、全庁的視点にたち、総合的かつ戦略的に公有資産の処分・有効活用等を行い、最適な形で公有資産の所有・利活用・維持管理をマネジメントする」という管理システムであり、青森県や静岡県浜松市などいくつかの自治体では、すでに取り組みが開始されています。

(2) 総合計画における方向

釧路市は、人口規模の増加等にあわせ、都市基盤の整備、市街地拡大といった量的な整備がすすめられてきましたが、釧路市総合計画においては、「既存施設等を可能な限り有効に活用することを基本に、中・長期的な財政状況を踏まえながら、事業の効果や効率性を十分検討し、適正な配置や整備に努める」と方針を定めています。

平成17年には3市町（釧路市、阿寒町、音別町）の合併により、新市は、広大な行政区域を有することになりました。各種公共施設の配置や整備については、この地理的特性、交通事情、情報通信基盤の整備状況などの地域性を考慮し、各地域の利便性のバランスが保たれるよう配慮する必要があるということも同計画に示されているところです。

(3) 公会計制度対応

また、釧路市では、公有資産マネジメントとは別の視点ではありますが、公会計制度に対応するため、公有資産の台帳のデータ化が進められており、また、財政健全化の観点からも公共施設の基礎データが整理されているところです。

2 提 言

～市全体の資産状況を把握し、

戦略的な公有資産マネジメントができる仕組みの検討・構築～

釧路市においては、公有資産に係る個々の基礎データが整理されつつあり、公有資産マネジメントの第一段階である公有資産の情報の一元化にすでに着手しているものとも言えます。さらに一歩進め、庁内全体で共有できるデータとして集約・一元化することができれば、今後毎年度既存公共施設などの

維持更新コストがどれくらいかというライフサイクルコスト（LCC）の推計やその財政負担の平準化、既存の施設アセスメントやその評価をもとにした資産の有効活用へと進めていくことが可能になるとともに、すでに釧路市が取り組んでいる保有財産（土地・建物）の最適化にもつながります。

限られた財源と人材の中で、より効率的・効果的な資産運営ができるという意義を公有資産マネジメントは有していることから、前述の総合計画の方針に向かうためにも、他先進自治体の取り組み事例を参考にしながら、都市経営という視点からの戦略的な公有資産マネジメントの検討と実践を進めていくことが求められます。

そのためには、まず、公有資産マネジメントを推進するための組織体制を整え、全庁横断的な視点で推進するため、現在保有している財産を検証し、そのあり方を検討するなど全体方針の策定に取り組む必要があります。

平成 22 年 10 月 8 日

釧路市都市経営戦略会議